

# プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

## 平成 28 年度プレカット部材共済会通常総会が開催

### — 瑕疵保証付き部材で安全安心の提供を —

全国住宅プレカット部材共済会は、平成 28 年度第 1 回理事会・第 14 回通常総会を平成 28 年 9 月 27 日（火）に永田町ビル 4 階 一般社団法人日本治山治水協会大会議室において開催しました。

総会の冒頭、原田会長から「平成 27 年度事業は、最少目標棟数を 800 棟として、平成 27 年 8 月 8 日にスタートし、これの達成のため、事業参加会員の皆様にご努力・ご協力をお願いすることで事業に取り組んだが、保証書発行棟数は 574 棟で事業を終了することになった。

最近の住宅着工数の動向は、年率換算値で見ると 100 万戸程度で推移し、住宅需要の回復が感じられる状況になっている。このような中で、公共建築物木造化促進等の非住宅分野での一般流通材を使用した木造建築物が増加していることから、昨年度、非住宅についても瑕疵保証の対象物件となるよう保険契約の見直しを行った。会員の皆さんにおいては、今後、需要が見込まれる非住宅分野の木造建築物用プレカット部材供給の新たな販売ツールとして活用していただくと期待している。また、この瑕疵保証事業も 10 年以上経過したということで、28 年度から保険料を引下げ、最小目標棟数も 734 棟という計画にしている。

改めて、全会員がプレカット部材瑕疵保証事業の役割の重要性を再認識し、共済会のプレカット部材瑕疵保証事業が会員の相互扶助の精神に基づき充実しつつ、今年度においては、ぜひ目標棟数の確保が図れるよう、会員の皆様の忌憚のないご意見ご助言を頂き、平成 28 年度事業計画を決定していただきたく、ご審議の程をよろしく願います。」旨の挨拶がありました。

議事では、平成 27 年度事業報告及び収支決算報告、平成 28 年度事業計画（案）及び収支予算（案）が提案、承認され、特に、28 年度においては①共済会とプレカット協会との連携強化、②共済会会員の啓発活動の推進、③顧客への普及活動の強化を重点的に講じることとなりました。

議事終了後、プレカット部材瑕疵保証事業の協力会社である M & K コンサルタンツ（株）大串企画開発部長から、住宅瑕疵保険の現状とプレカット部材瑕疵保証制度について講演が行われました。その中で、①住宅瑕疵担保履行法の資力確保措置では、当初は供託が 3 割、住宅瑕疵担保保険が 7 割の比率であったが、現在は半々くらいになってきており、従来から供託を選択していた分譲系のパワービルダーに加えて中堅の工務店でも供託に変えていこうという流れになってきている。供託の場合は瑕疵保証は自ら行うことになるので、プレカット部材瑕疵保証制度が生きてくることになる。②このたび、宅建業法が改正され、既存住宅の仲介取引での動きとして、宅建業者が売り主に対して専門家による建物状況調査（インスペクション）の活用を促すことで、売主・買主が安心して取引が出来る市場環境が整備されてくる。これにより中古住宅の売買が活性化するに当たって、この専門家によるインスペクションのときにプレカット部材の瑕疵保証制度の保証書が生きてくる。実際、大手仲介業者が今年度にも自社で扱う全ての中古住宅で建物検査を始める動きにもなっている。今後、この保証制度がついていることが中古住宅売買に当たって強みになっていくので、アピールをしていくことが重要。と、瑕疵保証制度推進のための説明がありました。

# 平成28年度木材利用推進全国会議が盛大に開催

木材利用推進中央協議会（会長 吉条良明全木連会長 構成：47 都道府県地域協議会、17 中央会員団体（当協会も参加））は、7月27日（水）に江東区新木場の木材会館において、平成28年度木材利用推進全国会議を開催しました。会議では、主催者として吉条会長のあいさつに続き、来賓として、沖林野庁次長、澁谷国土交通省木造住宅振興室長の祝辞があり、引き続いて「公共建築物・街づくり等木材利用推進の取組み」の発表が行われました。まず、国の施策・取組として、林野庁木材利用課 吉田課長は、「公共建築物による木の街づくり等の取組み」というタイトルで、公共建築物での木材利用の事例、CLTを用いた代表的な建築事例や公共建築物等における木材利用促進の予算措置等の紹介がありました。次に、国土交通省官庁営繕部木材利用推進室 米田専門官は、「公共建築物における木材活用の促進」と題して、公共建築物の木造・木質化について官庁施設整備に係わる技術基準の整備状況や官庁施設の木造・木質化の整備事例を紹介しました。また、文部科学省文教施設企画部施設助成課 唐沢担当官は、「木材を活用した学校施設づくりの促進」として、学校施設における木材利用の促進や木の学校づくり事例等の紹介がありました。

講演会では、京都大学生存圏研究所 五十田博教授が「熊本地震における木造住宅の被害と今後の耐震化」、株式会社山田憲明構造設計事務所 山田憲明代表取締役が「木の魅力を引き出す街づくりのための構造設計について」のタイトルで講演を行いました。

全国会議の中では、木材利用推進中央協議会主催による「平成28年度木材利用優良施設」の表彰も行われました。これは、木造建築物等において地域材を有効活用した施設、木材利用分野を拡大した施設、低位利用木材を有効活用した施設など、木造建築物の普及のため他の模範になる施設を表彰し紹介するものです。今回は、農林水産大臣賞として、真庭市落合総合センター（岡山県）の他、林野庁長官賞3件、木材利用推進中央協議会会長賞5件が表彰されました。

## 熊本地震の建築物被害の原因分析を行う委員会の報告書まとまる

熊本県を中心に数多くの建築物に倒壊などの被害をもたらした「平成28年熊本地震」における建築物被害の原因分析を行うことを目的とした「熊本地震における建築物被害の原因分析を行う委員会」の報告書がとりまとめられました。木造の「調査結果を踏まえた総括」での主な内容については、以下のとおりです。

- 旧耐震基準の木造建築物については、過去の震災と同様に新耐震基準導入以降の木造建築物と比較して顕著に高い倒壊率であった。必要壁量が強化された新耐震基準は、旧耐震基準と比較して、今回の地震に対する倒壊・崩壊の防止に有効であったと認められる。旧耐震基準のものについては、耐震化の一層の促進が必要。
- 新耐震基準導入以降の木造建築物では、接合部の仕様等が明確化された2000年以降の倒壊率が低く、接合部の仕様等が現行規定どおりのものは、今回の地震に対する倒壊・崩壊の防止に有効であったと認められる。2000年に明確化された仕様等に適合しないものがあることに留意し、被害の抑制への取組みが必要。
- 大きな被害のあった益城町中心部においても、住宅性能表示制度に基づく耐震等級（構造躯体の倒壊等防止）が3のものには大きな損傷がみられず、大部分が無被害であった。住宅性能表示制度の活用が有効。

## 平成28年度プレカットCAD技術者研修の予定

28年度のプレカットCAD技術者研修の開催予定は下記のとおりです。受講申込みは、各コース別に11月中旬以降開始する予定です。なお、1級コースと施設系中規模木造建築物対応コースの受講資格は、既に当協会のプレカットCAD技術者2級に登録されている方といたします。

研修コース	年 月 日	会 場	定 員
2, 3級コース	平成29年1月24, 25日	東京：木材会館	60名
1級コース	平成29年2月27, 28日	東京：木材会館	30名
施設系中規模木造建築物対応	平成29年3月7, 8日	東京：木材会館	30名

# 協会会員工場基礎調査結果について(平成27年第3回)

## 1 主要構造材加工設備の保有数等

		なし	1	2	3	4台以上	計	1工場当り 平均保有数	(前年平均)
横架材 加工 ライン	工場数	2	16	14	4	2	38		
	延台数	0	16	28	12	9	65	1.71	(1.71)
	うち金物対応 工場率(%)	0	63	64	100	100	66		
柱 加工 ライン	工場数	2	18	12	3	3	38		
	延台数	0	18	24	9	12	63	1.65	(1.74)
	うち金物対応 工場率(%)	0	56	67	100	100	63		
複合 ライン	工場数	28	10	0	0	0	38		
	延台数	0	10	0	0	0	10	0.26	(0.48)
	うち金物対応 工場率(%)	0	100	0	0	0	26		
ロボ ット	工場数	25	12	0	1	0	38		
	延台数	0	12	0	3	0	15	0.39	(0.50)
合計(延台数)		0	56	52	24	21	153		

## 2 羽柄材加工設備等の導入状況

		保有台数別工場数					導入を 予定	導入を 検討中	予定 なし	合計
		1台	2台	3台	4台以上	計				
羽柄材 加工 設備	工場数	17	15	3	2	37	0	0	1	38
	割合(%)	44.7	39.5	7.9	5.3	97.4	0	0	2.6	100
	(前年割合(%))	(47.6)	(35.7)	(7.1)	(9.5)	(100)	(0)	(0)	(0)	(100)
パネル 加工 設備	工場数	19	9	3	1	32	0	0	6	38
	割合(%)	50.0	23.7	7.9	2.6	84.2	0	0	15.8	100
	(前年割合(%))	(54.8)	(21.4)	(4.8)	(4.8)	(85.7)	(0)	(2.4)	(11.9)	(100)
大断面 加工 設備	工場数	5	1	0	0	6	3	8	21	38
	割合(%)	13.2	2.6	0	0	15.8	7.9	21.1	55.3	100
	(前年割合(%))	前年は調査を行っていない。								

### ◇簡単なコメント

- 1 1工場当たりの各加工ラインの数を前回調査時(平成26年12月)と比べると、横架材、柱加工ラインでは大きな変化はないものの、複合ライン、ロボットにおいては減少傾向がみられます。これは、最近の横架材加工ライン等でも多様な部材加工が可能となってきたことから、工場の生産効率を高めるため、従来からの既存設備が見直されつつあることも一因とみられます。
- 2 羽柄材加工設備は、ほぼ全ての調査対象工場で設置されており、また、パネル加工設備も8割以上の工場で設置されています。既に、これらのはプレカット工場にとってスタンダードな設備といえるでしょう。
- 3 一方、今回から調査を始めた大断面加工設備は、2割弱の工場で設置されていますが、この他3割弱の工場で設備導入等が検討されており、新たな需要分野である非住宅木造建築物に対応するため、導入の加速化が図られると推測されます。

# プレカット業況調査(平成28年8月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ (回答率: 46%)

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	17	70	13	+ 4	+ 15
1-2 3ヵ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	30	43	27	+ 3	+ 18
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答: 6,120円 (対前回調査+ 40円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	90	7	- 4	0
3-2 3ヵ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	94	3	0	- 12
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	10	83	7	+ 3	- 6
4-2 3ヵ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	0	87	13	- 13	- 12
5-1 今月の収益は3ヵ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	20	70	10	+ 10	+ 6
5-2 3ヵ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	23	57	20	+ 3	0

\* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

\* 前回調査: 平成28年5月

## ◇簡単なコメント

8月の各設問のDIをみると、受注額、収益はプラスであり、3ヵ月後においてもプラスで推移するものと予測されている。このような中で、加工単価について弱含みで推移するとみられていたが、ほぼ現状維持となっている。また、資材の入手環境は、軟化しているが、3ヵ月後の入手状況については、需要増に伴うタイト感が続いている。今後に向けては、現在の業況がどの程度の持続性があるのか関心が持たれる。

1. 受注額のDIは+4で前回調査時(平成28年5月期)に比べて数字は下げてきているが好況さは維持している。このような中で、3ヵ月後の予測のDIは+3であり、あまり大幅な増加は見込めないものの、現在の受注状況が年末まで続くことが期待される。
2. 3ヵ月前と比較した製品加工単価のDIは-4とマイナスに振れてはいるが、平均総加工単価は6,120円と3ヵ月前と比べて40円上昇しており、ほぼ横ばいの範疇といえ落ち着いた動きといえるであろう。一方、3ヵ月後の製品加工単価のDIは0で、受注量が好調さを維持しているにもかかわらず加工単価の上昇は期待薄であるということは厳しい現状といえるであろう。
3. 資材入手状況のDIは+3、前回に比べると入手環境は軟調となっているが、3ヵ月後の予測のDIは-13(前回も-12)であることから、タイト感は続いており、この状況は続くものとみられる。
4. 3ヵ月前と比べた今月の収益のDIは+10と好転しており、前回調査時の3ヵ月後の収益予測が0であったことからしても好況さを維持している。3ヵ月後の収益予測は+3でほぼ現状維持とみられるが、秋需の時期でもあり、現在の収益状況が持続するよう期待される。